

# 第18回わくわくコンサート

— みんなで楽しむ音楽鑑賞会 —

代表者 末澤美咲 (教育学部 学校教育教員養成課程  
中学校コース 音楽領域 4年)

## 1. 目的と概要

### 【目的】

本事業は、小さなお子様や特別な支援を必要とする方など、日ごろコンサートに参加することが難しい方をはじめ、誰もが気軽にホールで音楽を楽しんでいただける機会を創出することを目的とし、今回18回目を迎えたコンサート活動です。香川大学生を中心に活動し、先生方や大学職員の方々、卒業生、演奏者、企業、団体等のご協力を得て、毎回無料でコンサートを実施しています。演奏を楽しんでいただくことをはじめ、その年のテーマに沿ったイベントを行い、テーマ国の文化や芸術にふれていただく機会となること、またそれを通して市民の方々の交流・共生の場とすることも目的としています。

### 【概要】

◆ テーマ： 旅する芸術家たち --ショパンをめぐって--

◆ 会場： サンポートホール高松大ホール

◆ コンサート

I. 13:00 - 13:45

1. W. A. モーツァルト：バイオリン協奏曲 第3番「シュトラスブルク」K.216より

バイオリン：山中香林

2. F. メンデルスゾーン：交響曲 第4番 Op.90「イタリア」

3. E. グリーク：ペール・ギュント 第1組曲 Op.46・第2組曲 Op.55より

「ペールの大冒険 -第18回わくわくコンサートバージョン-

II. 14:00 - 14:45 5歳以上・全自由席

F. ショパン：ピアノ協奏曲 第1番

ピアノ：西本裕矢

指揮：小森康弘

演奏：Wakuwaku 室内管弦楽団

◆ イベント

ロビー展示：《ヨーロッパ絵画》(満濃町立まんのう中学校美術部作成)原画展

楽器体験：バイオリン、ビオラ、チェロ、箏

ロビー保育

◆ 主催・後援等

主催：第18回「わくわくコンサート」実行委員会

共催：（公財）高松市文化芸術財団 かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO)  
後援：ポーランド広報文化センター 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会  
高松国際ピアノコンクール組織委員会 日本ショパン協会 四国新聞社  
協賛：（公財）南海育英会  
（株）ヤマハミュージックジャパン高松店 松楠会（香川大学教育学部同窓会）  
協力：香川大学 EU 情報センター（香川大学） 幸楠会（香川大学教育学部後援会）  
（株）レアスウィート 美巧社

## 2. 実施期間（実施日）

令和 7 年 1 月 26 日（日）

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

「旅する芸術家たち」をテーマに開催した今回のわくわくコンサートでは、[過去]・[ショパンの時代]・[未来]の作品を取り上げ、ショパンの生きた時代の広がりや未来への繋がりを感じられるプログラムとした。

[過去]の作品として、ショパンが形式を受け継いだモーツァルトの《バイオリン協奏曲第3番》を演奏した。この曲はポーランド・クラクフの図書館に自筆譜が収蔵されている特別な作品であり、ショパンの音楽の源流を伝えるものとなった。

[ショパンの時代]では、ショパンと同時代を生きたメンデルスゾーンの《交響曲イタリア》を取り上げた。

[未来]では、「北欧のショパン」と称されるグリーグの《ペール・ギュント組曲》を演奏し、このコンサートのために作ったナレーション原稿やオリジナルの絵とともに音楽を楽しめる工夫を行った。

後半では、ショパンの《ピアノ協奏曲第1番》を演奏した。ショパンが20歳の頃に作曲したロマン派を代表するこの協奏曲では、第3楽章にポーランド・クラクフの舞曲クラコヴィアクが用いられている。

バイオリンとピアノは、香川県出身の若手演奏家で、将来が囑望されるお二人を招聘した。

### 【コンサートⅠ】

[過去]W. A. モーツァルト [現在]F. メンデルスゾーン [未来]E. グリーグの3作品を演奏した。

### 【コンサートⅡ】

ショパンのピアノ協奏曲を全楽章演奏した。これからの活躍を期待される西本裕矢さんをソリストに迎え、サンポートホールが改修後に購入したスタインウェイのコンサートグランドピアノを市民の皆さまに初めてお聴きいただく機会ともなった。



モーツァルト：バイオリン協奏曲 第3番



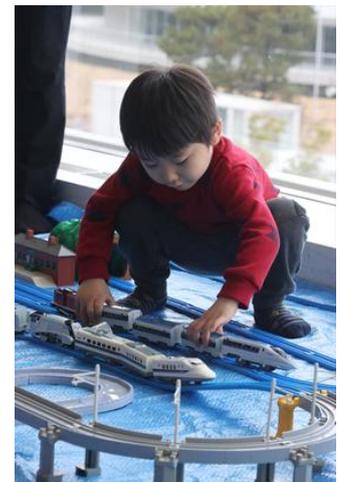
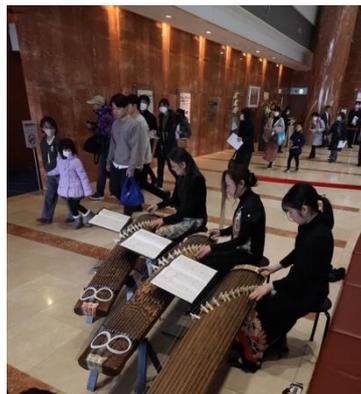
グリーグ：ペールの大冒険



ショパン:ピアノ協奏曲第1番

### 【ロビー・イベント】

今回は、4年ぶりに Covid-19 による制約のないコンサートの開催となった。「楽器体験」は、バイオリン、ビオラ、チェロを予約制で実施した。予約は即日いっぱいになった。「大ホールでピアノを弾こう」は10名の子どもたちがコンサート終了後にステージ上で、スタインウェイのコンサートグランドを弾いた。またロビーでは箏の体験を多くの子どもたちが行った。



ホール内



大ホールでピアノを弾こう



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

		内 容	
1	後援	ポーランド広報文化センター	メッセージ：ポーランド大使
2	協力	かがわ・ジュニアフィルハーモニックオーケストラ（KJO）との協力（演奏・指導）	
3		ヤマハ高松 楽器の貸し出し（バイオリン・ビオラ・チェロ）	
4	新聞	ナスタウン	1月22日号（2月号）
5		四国新聞社	1月23日
6	テレビ	NHK ひるどき四国	1月22日
7		瀬戸内海放送で放映	1月26日

演奏会に行く機会が少ない子どもや保護者らに音楽に親しんでもらおうと無料のコンサート 高松市

KSB瀬戸内海放送 10/21月 9:28



演奏会に行く機会が少ない子どもや保護者らに音楽ホールで無料のコンサートが開かれました。香川大学の学生らが開いた「わくわくコンサート」です。

このコンサートは、演奏会に行く機会が少ない子どもや保護者らに音楽ホールでコンサートを楽しんでもらおうと、毎年無料で開かれていて、今回で18回目です。コンサートのテーマは「旅する芸術家たち」。

ポーランド出身の音楽家・ショパンを中心に据えて、過去・ショパンの時代・未来のプログラムで、それぞれの時代の音楽が演奏されました。



ようやく Covid19 の制限を受けない状態で準備を進めることができたため、前年度より大きく展開したプログラムやイベントを実施できることに期待が膨んだ。これまで縮小していたものも元の形で実施できるように企画を考えたり、昨年度に実施していたイベントをより良いものにするために改善策を練ったりし、上記のようなプログラムやイベントを開催することができた。実施するにあたって、実行委員会やボランティアには幅広いバックグラウンドをもつ学生が集まり、互いに得意分野を活かしながら準備を進めたため、お客様に一層喜んでいただける内容が構成できたように思う。

当日は、開場時間の前から多くのお客様が足を運んでくださり、皆さまが楽しみにしてくださっている気持ちが伝わってきた。今回は予約制をとらない入場としたため、想定外のことが起こってしまうかもという不安もあったが、さまざまなパターンを想定して開場案内や人員配置計画に取り組み、トラブルなくホール内まで足を進めていただくことができた。お客様との関わりの中で、「今までコンサートに来る機会があまりなかったから、迫力のある演奏が聞いてよかった」「楽しいイベントも企画されていて楽しく過ごせた」と嬉しいお言葉を多くいただいた。

香川大学の全学部の学生が参加しているこのコンサートは、参加した学生にとって、地域の子供達や地域の皆様と共に生きるという意味を考える取り組みになったのではないかと思う。また、予約制で行ったイベントは即日いっぱいになったこと、そして会場のお客様と関わった中で、わくわくコンサートが

地域の方々にとって価値あるものになっていることを強く実感した。地元企業、演奏者など、さまざまな方からのご協力もいただきながら、今回の開催を盛況のうちに終えることができた。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本事業を通して、学生が地域貢献として働きかけることの意義を見つけることができた。ここ数年のコンサートでは、新型コロナウイルスの影響を受ける中での実施となり、イベントの中止、縮小をせざるを得ない状況に追い込まれた。そんな苦難の時期を乗り越え迎えた今回は、制限を受けない状態で開催することができ、たくさんのお客様と接したり、協力してくださる地域の方々に関わったりすることができた。大学生ボランティアと話しながらイベントを楽しむ子どもたちの笑顔や、それを見守る保護者の方々、毎年のコンサートを楽しみにしてくださっている地域の方々に関わる中で、喜びを感じるとともに、地域のつながりのあたたかさに触れることができた。

運営は、本学学生と教職員らで構成された実行委員会が中心となって活動を進め、ボランティアや関係者らによるご協力を得て進めてきた。主としてロビー、ホール、舞台運営の3つの部門で責任者を中心に活動し、事前の協議を重ねた。これまでほとんど接点がなかった学生同士が、学部や学年、領域を越え、より良いコンサートをお届けするために協力して動いたことで、幅広くお客様に楽しんでいただけるプログラムを作ることができたと思う。本事業は、演奏者、企業や団体の皆様、卒業生・修了生、先生方や大学職員の方々など、本当に多くの皆様のご協力を得て成り立っている。平成19年から続いているこのコンサートを、今年度も無事に事故なく開催できたことを心より嬉しく感じると同時に、この事業に関わることができたことを光栄に思う。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本コンサートは、毎年、前年度の課題や反省点を前回の実行委員会から引き継いで開催している。改修工事を終えたサンポートホール高松大ホールを再び会場とすることができたため、例年通りの嬉しさもありつつ、昨年、一昨年とはまた違った運営を行っての開催となるため、経験者がほとんどいないという不安もあった。しかしこれまで、感染症の大きな影響でさまざまな規制を強いられてきた時期もあったが、今回制限のない状態で実施できたことに改めて喜びを感じる。

反省点としては、人員配置が考えられる。舞台運営の効率化やホールでの手厚いお客様対応など、さまざまな面を考慮し人員を配置したが、当日は過不足が見られた。例えば、会場前の警備では、想像以上のお客様が早くから並んでくださっていたため、もう少し人員を配置した方が安心して取り組むことができたように思う。他にも、舞台運営では効率よく実施できることを目指して計画を立てたが、一時的に大人数の手が必要になる場面もあり、もう少し人手があればという場面もあった。当日の状況によって、臨機応変に対応することが必要だが、計画の段階でもう少し多様なケースも想定すべきだったかと考える。しかしそんな中でも、ボランティアで参加した学生たちは機転をきかせ、状況に応じてスムーズに動いてくれた。おかげで、事故なく、安全にコンサートをお楽しみいただけた点は幸이었다。

今回、新たな試みやさまざまな工夫を重ねて活動を継続することができた。昨年度からの変更点も多く、計画通りの実施が難しい点もあって反省点も見つかった。しかし今回も多くのお客様の笑顔あふれるコンサートになり、私たちにとってかけがえのない貴重な経験となった。そして改めて音楽の力を実感することができた。

## 7. 実施メンバー



代表者 末澤 美咲(教育学部4年)

副代表 辻 絢音(教育学部4年) 小林拓実(創発研究科1年) 福田雅英(教育学部4年)

構成員 西岡 優太(教育学部4年) 村木俊輔(教育学部4年)

藤田太紀(教育学部3年)

安田 葵(教育学部4年) 谷 奏美(教育学部3年)

島田愛琉(教育学部3年) 近藤奏来(教育学部3年)

北野あゆな(教育学部3年)

吉田朱美玲(教育学部3年)

三好葵生(教育学部4年)

戸上由美子(教育学部3年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
チラシ	32,000	4.38	140,160	
パンフレット	1,300	41.80	54,340	
ポスター	5	1,100	5,500	
*デザイン含む, 封入作業含む				
合計			200,000	